

平成29年度決算に係る

定期監査調書

平成30年5月

農林水産部 栽培漁業センター

目 次

1	前年度指摘事項等に対する措置等	1頁
	(1) 指摘事項	
	(2) 監査意見	
2	前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項に対する処理状況	1頁
3	組織及び業務調べ	1頁
4	職員の定員、現員調べ	2頁
5	役付職員の調べ	2頁
6	主な事業に関する調べ	3頁
7	収入証紙取扱額調べ	8頁
8	収入事務処理状況調べ	8頁
	(1) 分担金及び負担金	
	(2) 使用料	
	(3) 手数料	
	(4) 財産収入	
	(5) 諸収入	
	(6) 現金の取扱状況	
9	収入未済額調べ	10頁
10	未収金回収促進のための取り組み状況調べ	10頁
11	不納欠損額調べ	10頁
12	負担金、補助金、交付金及び委託料支出状況調べ	11頁
	(1) 負担金	
	(2) 補助金	
	(3) 交付金	
	(4) 委託料	
13	工事請負費調べ	13頁
14	財産に関する調べ	13頁
	(1) 公有財産	
	(2) 金券類の受払状況	
15	財産の貸付及び使用許可調べ	18頁
	(1) 土地及び建物	
	(2) 物品	
16	借受不動産明細調べ	23頁
17	職員住宅及び職員駐車場の管理状況調べ	23頁
	(1) 職員住宅	
	(2) 職員駐車場	
18	寄附物件の受納状況調べ	24頁
19	備品の処分状況調べ	24頁
20	現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ	24頁
	(1) 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ	
	(2) 物品の照合	
21	船舶（公有財産の船舶を含む。）の管理状況	25頁
22	事業別予算執行状況調べ	25頁
23	試験研究調査事業別実施状況調べ	26頁
24	船舶運航調べ	31頁
25	用船の状況調べ	32頁

○ 意見、要望等.....	33頁
---------------	-----

1 前年度指摘事項等に対する措置等

(1) 指摘事項

指 摘 事 項	措 置 状 況 等
<p>郵券類について、郵券類受払簿の残高と実際の残高が合致していなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年3月分から、受払簿（控え）の使用をやめ、使用者が直接、郵券類受払簿へ記載する方式に改めた。 ・平成29年3月分から、郵券類受払簿は郵券類と一緒に金庫に保管し、使用者が物品保管主任（不在の場合はその上席の者）から郵券類受払簿を受けとり使用内容と備考欄に氏名を記載し、物品保管主任（不在の場合はその上席の者）が記載内容を確認してから郵券類を交付する方式に改めた。

(2) 監査意見

該当なし

2 前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項（口頭指摘を含む。）に対する処理状況

該当なし

3 組織及び業務調べ

課 名	係（担当）名	課の主な所掌事務
栽培漁業センター	総務担当	人事管理、予算・決算事務
	養殖・漁場環境室	<p>水産動植物の増殖、養殖及び漁場環境についての試験研究及び調査に関すること。</p> <p>その他水産技術の普及指導並びに沿岸漁業及び内水面漁業の促進に関すること</p> <p>（主な担当業務）</p> <p>マサバの養殖技術開発、未利用海藻の利用・増養殖、漁港内養殖可能性調査、魚病の疾病対策技術開発等</p>
	増殖推進室	<p>〃</p> <p>（主な担当業務）</p> <p>河川・湖沼の水産資源・漁場環境、沿岸漁業重要資源調査、沿岸の漁場環境の監視、イワガキ資源回復技術開発試験等</p>
	試験船おしどり	<p>〃</p> <p>（主な担当業務）</p> <p>おしどりの運航、船舶調査等</p>

4 職員の定員、現員調べ

(平成30年5月1日現在)

種別 区分	事務職員		技術職員		現業職員		計		備考
	当該年度	29.4.1現在	当該年度	29.4.1現在	当該年度	29.4.1現在	当該年度	29.4.1現在	
定員	1	1	11	11	1	1	13	13	
現員	() 1	() 1	() 11	() 11	() 1	() 1	() 13	() 13	
過不足△	0	0	0	0	0	0	0	0	
臨時職員	0	0	0	0	0	0	0	0	
非常勤職員	1	1	11	11	2	2	14	14	事務1、警備2 研究員補助員11

() は、育児休業、退職中の職員数。

5 役付職員の調べ

(平成30年5月1日現在)

職名	氏名	在職期間		備考
		年	月	
所長	氏 良介	1	1	
総務担当課長補佐	遠藤真由美		1	出納員
養殖・漁場環境室長	山本 健也	1	1	勤務期間：4年5月
増殖推進室長	福井 利憲	3	1	勤務期間：7年10月

6 主な事業に関する調べ

(単位：千円)

事業名	決算(見込)額	財源内訳		
		国庫支出金	その他	一般財源
キジハタ栽培漁業実用化支援調査	4,068	1,374	4	2,690
鳥取元気プロジェクト	(2) 産業を元気に 漁船増強や育てる漁業、高度衛生処理など水産振興			
元気づくり総合戦略	1 豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる～鳥取+ism～ (2) 農林水産業 (2) 農林水産業の活力増進			

(概要)

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

県は、平成20年から種苗生産および放流技術の開発試験を開始し、平成28年から漁業者が主体となり、放流事業が開始された。本事業では、キジハタ栽培漁業を推進するため、放流手法の改良(高生残化)や放流効果(回収率、費用対効果B/C)の検証を実施し、かつ市場における単価向上につながる調査、研究を進める。

(イ) 事業の実施状況

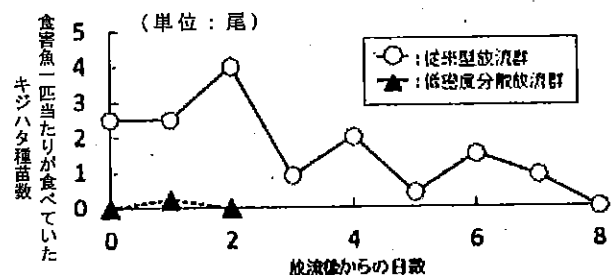
- ・放流適地調査：放流前の潜水調査により放流場所の海底の状態や藻場の繁茂状況を確認した。
- ・放流初期の追跡調査：潜水調査で放流種苗を捕獲し、分布状況や肥満度を把握した。刺網調査で食害魚を捕獲し、放流種苗の食害状況を把握した。
- ・放流後の追跡調査：釣獲調査を行い、放流魚の分布を調べた。捕獲した個体の一部には標識を付けて再放流し、定着性の検証を行った。
- ・市場調査：市場における放流魚の回収率を把握し、費用対効果の査定を行った。
- ・脂肪含有量測定：筋肉中の粗脂肪量を測定し、体サイズによる傾向を検討した。

イ 平成29年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・鳥取県産キジハタの単価向上に向けて、脂肪含有量測定に取り組んだ。

ウ 成果及び効果

- ・小型エビ・カニ類等が豊富に分布する藻場・転石域に放流場所を見直したことで、生残率だけでなく成育状況も向上した。
- ・東部は網代、西部は淀江で放流後の食害状況を調べるため刺網調査を行っている。地区により差はあるものの、低密度分散型放流を開始した平成23年放流群については、従来の放流群より食害率が低減された。
- ・脂肪含有量は、0.4～7.4%と個体差があるものの、魚体サイズが大きいほど高い傾向がみられた。
- ・得られた成果は平成29年度赤碕一本釣り組合や平成29年度酒津ひらめ会総会等で報告した。



エ 課題

- ・費用対効果の検証および放流手法の改善を引き続き行う必要がある。
- ・放流種苗の高生残化を図るため、漁業者への放流手法の普及や資源管理の指導も必要である。
- ・脂肪含有量は部位で異なるため、脂肪量を正確に測定することが可能な部位を検討する必要がある。
- ・キジハタ親魚の早期採卵、早期種苗生産を試験的に実施し、早期放流の効果を検証する。

(単位:千円)

事業名	決算(見込)額	財源内訳		
		国庫支出金	その他	一般財源
養殖事業展開可能性調査事業	5,907	2,105	5	3,797
鳥取元気プロジェクト	(2)産業を元気に 漁船増強や育てる漁業、高度衛生処理など水産振興			
元気づくり総合戦略	1 豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる ～鳥取+ism～ (2)農林水産業 (2)農林水産業の活力増進			
(概要)				
ア 目的及び事業の実施状況				
(ア) 目的				
鳥取県で現在進めている陸上養殖について飼育方法、条件等を検討し、効率的で生産性のある養殖手法の確立を目指す。平成24年度から「井戸海水を用いたマサバ陸上養殖」について試験を開始し、平成27年度からは「カワハギ類の陸上養殖」について試験を行っている。				
(イ) 事業の実施状況				
1. マサバ養殖試験				
<ul style="list-style-type: none"> ・養殖事業の効率化を図るため、より高成長、高生残率を目指す飼育方法の試験を実施した。 ・海面養殖の事業性(市場性等)を調査するため、企業との共同試験を実施した。 ・海面養殖における成熟の影響をさけるため、晩期の種苗生産試験を実施した。 ・養殖事業を開始した企業への飼育指導、助言等のフォローアップを実施した。 				
2. カワハギ類養殖試験				
<ul style="list-style-type: none"> ・ウマツラハギの完全養殖に向けて、種苗生産試験を実施した。 ・民間業者と共同研究により陸上養殖の可能性について検討した。 				
イ 平成29年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点				
<ul style="list-style-type: none"> ・マサバ養殖試験では、養殖魚の高成長、高生残率を促すため、配合飼料にビタミンCやフィードオイルを添加するなどし、給餌面の改善を施した。 ・また、飼育コストの低減を図るため、生餌の給餌量と成長率の関係性を調査し、給餌方法の改良に繋がるデータ収集に取り組んだ。 				
ウ 成果及び効果				
<ul style="list-style-type: none"> ・マサバの晩期種苗生産試験において、マサバ種苗の量産が可能であることがわかった。 ・平成29年6月から、JR西日本が網代漁港に進出し、マサバ養殖を開始した。 ・マサバ養殖試験で得られた飼育データ等を基に、養殖事業者への飼育方法の改善指導や、課題への対処アドバイスが行われ、養殖事業の円滑な実施、運営が図られた。 ・ウマツラハギの種苗生産試験において、種苗生産技術確立の目安となる1000尾/t(前年度は165尾/t)の種苗を生産した。 				
エ 課題				
<ul style="list-style-type: none"> ・マサバ養殖では夏期に、高水温に伴う斃死多発や、その対策となる餌止めによる成長停滞が起こりやすく、養殖事業の効率性を下げる要因となっており、飼育方法の改良(餌種類、給餌方法など)や種苗の質などの改良が必要となっている。 ・ウマツラハギの種苗生産事業化のため、一度に大量の受精卵を確保する方法を検討する必要がある。 ・ウマツラハギの陸上養殖では、防疫対策などによる生残率の向上が課題となっている。 				

(単位：千円)

事業名	決算(見込)額	財源内訳		
		国庫支出金	その他	一般財源
アユ資源緊急回復試験	4,611	0	5	4,606
鳥取元気プロジェクト	(2)産業を元気に 漁船増強や育てる漁業、高度衛生処理など水産振興			
元気づくり総合戦略	1 豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる～鳥取+ism～ (2) 農林水産業 (2) 農林水産業の活力増進			

(概要)

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

県内河川ではアユの不漁が長く続いている。原因として天然アユ資源の減少、河川環境の悪化、アユの餌となる付着藻類の減少、魚食性の野鳥カワウによる食害、疾病の影響等が考えられる。本事業ではこれら不漁原因の対応策を見出し、アユ漁の復活を目指す。

(イ) 事業の実施状況

県内の3河川(日野川、天神川及び千代川)において、以下の調査等を実施した。

調査名	時期	場所	内容
遡上量調査	4～5月	3河川	春季に海から遡上するアユの尾数やふ化日を調査
流下仔魚調査	10～12月	3河川	秋～冬季に卵からふ化し海に下るアユの尾数を調査
冷水病調査	4～5月	3河川	河川内のアユや放流種苗の冷水病保菌検査を実施
漁場環境調査	8月	天神川	アユの生息状況及び河川形態などの漁場環境を調査
カワウ被害防止効果調査	5月	千代川 天神川	河川内にテグス(釣り糸)を張り、カワウの食害防止効果を調査

河川におけるアユ漁を早急に回復させるため、海域調査に加え、河川生活期の資源増殖に係る包括的な調査・検討を行った。

イ 平成29年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

新規事業

ウ 成果及び効果

- ・遡上量について、日野川で約7万尾、天神川で約3万尾と推定され、天然資源はいまだに少ない状態にあることがわかった。
- ・今年度ふ化したアユの推定ふ化量は、日野川では大幅に減少した前年(H23～27年平均：約5億2,000万尾、H28年：約7,859万尾)と同程度、天神川及び千代川は過去最低の数量となった。10月の台風による増水で卵が流出したものと考えられる。
- ・冷水病保菌調査の結果、県内1河川で、放流種苗及び河川内のアユから冷水病菌が確認された。
- ・天神川アユ漁場環境調査の結果、河川が直線化して淵が消失するなど、河川の形態そのものがアユの生息に不適となっていることがわかった。
- ・河川内にテグス(釣り糸)を張ることがカワウ被害軽減策として有効であると考えられた。

エ 課題

- ・冷水病菌を保菌していない種苗の放流を指導する必要がある。
- ・天神川の漁場環境について、今年度の調査で判明した問題点を解決し、アユ資源を保全するための具体的な方策を検討する必要がある。
- ・天然アユの減少原因、アユの餌となる付着藻類の減少原因を明らかにする必要がある。

(単位：千円)

事業名	決算(見込)額	財源内訳		
		国庫支出金	その他	一般財源
漁港内養殖可能性調査事業	6,921	0	26	6,895
鳥取元気プロジェクト	(2)産業を元気に 漁船増強や育てる漁業、高度衛生処理など水産振興			
元気づくり総合戦略	1 豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる ～鳥取+ism～ (2)農林水産業 (2)農林水産業の活力増進			
(概要)				
ア 目的及び事業の実施状況				
(ア) 目的				
十分に活用されていない漁港・港湾内を利用した魚類養殖事業の可能性について調査研究を行う。 また、漁業者が副業的に取り組み、生産魚は付加価値をつけ高値で販売し、儲かる仕組みについて検討を進める。				
(イ) 事業の実施状況				
1. 短期養殖試験				
県内2漁港(御来屋漁港、長和瀬漁港)において定置網とかご網で漁獲したウマツラハギを養殖し、生残・成長・品質等について調査を行った。				
2. 販売試験				
順調に生育した個体については試験的に販売し、価格等を把握し、事業の収益性について検証を進めた。				
イ 平成29年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点				
特になし				
ウ 成果及び効果				
<御来屋漁港>				
・9月末より定置網で獲れたウマツラハギ120尾を生簀に收容し養殖試験を開始した。				
・飼育は順調に推移していたが、10月末の台風21号の通過後にほぼ全滅した。				
・台風時の波浪や潮流により、魚が網に擦れて弱る「網ズレ」が原因と推測された。				
<長和瀬漁港>				
・9月末よりかご網で獲れたウマツラハギ277尾を生簀に收容し養殖試験を開始した。				
・飼育開始当初に斃死が相次ぎ、最終的な生残は36.4%と想定より悪かった。				
・深い水深帯から引き揚げた魚を養殖したため、漁獲時の水圧差によりダメージを受けた個体が生簀收容後に徐々に斃死したと推測される。				
・順調に生育した個体は肝が大きくなり、比肝重(全重量に対する肝臓の割合)で目標としていた10%以上に成長した。				
・12月中旬に賀露市場に活魚出荷し、1,100円/kgと当日の鮮魚の価格(700~800円/kg)より高い値が付いた。				
エ 課題				
・御来屋については、波浪等の影響が少ない静穏性が保てる場所に生簀を移動させる必要がある。				
・長和瀬については、漁獲時の水圧差によるダメージを軽減させ、歩留りを高める必要がある。				
・それぞれの地区の課題を克服して生産量を拡大し、事業の収益性を高める必要がある。				

(単位:千円)

事業名	決算(見込)額	財源内訳		
		国庫支出金	その他	一般財源
栽培漁業センター施設増強事業【明許】	429,099	214,549	214,000	550
鳥取元気プロジェクト	(2)産業を元気に 漁船増強や育てる漁業、高度衛生処理など水産振興			
元気づくり総合戦略	1 豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる ～鳥取+ism～ (2) 農林水産業 (2) 農林水産業の活力増進			
(概要)				
ア 目的及び事業の実施状況				
(ア) 目的				
漁業者や養殖業者のニーズに応え、本県における「つくり育てる漁業」を推進するため、栽培漁業センターの施設(調査研究や種苗生産を行うための施設・機器)を増強する。				
(地方創生拠点整備交付金を活用)				
[背景]				
・栽培漁業センターでは多くの魚種の種苗生産技術の開発や生産を行っており、現有施設はフル稼働の状況であるとともに老朽化も進んでいる。				
・キジハタ放流尾数は漁業者の要望等を踏まえ「第7次鳥取県栽培漁業基本計画」で今後10万尾としているが、現有施設では5～6万尾の生産が限界である。				
・マサバは新たな養殖対象種として高い注目を浴びており多くの需要があるが、現有施設では十分な生産(ニーズ:35万尾、現状:12万尾)ができない。				
・マサバ養殖は、成長・生残率の向上と生産コストの削減が大きな課題である。				
(イ) 事業の実施状況				
【平成28年度実施】				
・重力式ろ過槽撤去前金3,140千円、焼却炉ダイオキシン類検査委託141千円				
【平成29年度実施】				
・重力式ろ過槽撤去(5月末完了)・・・中部総合建築住宅課発注				
・マサバ棟建設(3月完成)・・・中部総合建築住宅課発注				
S造延べ436.0㎡				
・海水井戸整備(3月完成)・・・中部総合建築住宅課及び農林局地域整備課発注				
深井戸(50m)2本、浅井戸(26m)2本				
・種苗生産用機器整備(3月整備)・・・栽培漁業センター発注				
フィッシュポンプ1機、自走式水槽底掃除機3台、冷凍庫1台				
イ 平成29年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点				
特になし				
ウ 成果及び効果				
施設整備はほぼ計画通り3月完成予定である。これにより、ニーズに対する調査研究や種苗供給体制に見通しがたった。				
エ 課題				
施設完成後に、新たな試験研究の準備を整えていく必要がある。				

7 収入証紙取扱額調べ

(平成29年12月31日現在)

収入科目		件数	単価(円)	証紙はりつけ額(円)	備考	
目	細節					
農林水産業 手数料	水産業手数料	5	28,600	143,000	アユ冷水病	
		3	28,600	85,800	アユ冷水病	
		4	28,600	114,400	アユ冷水病	
		1	28,600	28,600	アユ冷水病	
		2	28,600	57,200	アユ冷水病	
		1	15,700	15,700	ヒラメに係るグドアセプテンタータ検査 検鏡検査	
	栽培漁業セン ター手数料	1	13,700	13,700	コイヘルペスウイルス病の検査	
		1	20,300	20,300	コイ春ウイルス血症検査 ウイルス分離検査	
	計(節)		18	420	7,560	証明書
	目計		36		486,260	
合計		36		486,260		

8 収入事務処理状況調べ

(1) 分担金及び負担金

該当なし

(2) 使用料

(平成29年12月31日現在)
(単位:円)

収入科目		件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令等	備考
目	細節							
行政財産 使用料	行政財産使用料	305	306,000	305,000	0	1,000	鳥取県公有財産事務取扱 規則	駐車場使用料 冷房使用用
		1	17,155	17,155	0	0		
計(節)		306	323,155	322,155	0	1,000		
目計		307	323,155	322,155	0	1,000		
合計		307	323,155	322,155	0	1,000		

(3) 手数料
該当なし

(4) 財産収入
該当なし

(5) 諸収入

(平成29年12月31日現在)
(単位:円)

目	収入科目		件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令名等	備考
	節	細節							
雑入			1	35,760	35,760	0	0		軽自動車使用料
			1	13,600	13,600				共同研究飼育水使用料
			1	171,850	171,850				共同研究用試魚代
			1	14,057	14,057				工事業者電気等使用料
			1	494,268	494,268				共同研究種苗生産費
		計(節)	5	729,535	729,535	0	0		
	目計		5	729,535	729,535	0	0		
	合計		5	729,535	729,535	0	0		

(6) 現金の取扱状況

該当なし

9 収入未済額調べ
(平成29年12月31日現在)
(単位:円)

収入科目 目	区分		過 年 度 分				現 年 度 分			収入未済 額		未收理由	
	節	細節	前年度 以前から の繰越額	左のうち 収入済額	不 納 欠損額	差引収入 未済額 (A)	収入未済額の 26年度 以前	27年度	28年度	収入済額	収入 未済額 (B)		(A+B)
行政財産 使用料			0	0	0	0	0	0	0	323,155	1,000	1,000	減額調定せずに、歳入 戻出したため
			0	0	0	0	0	0	0	323,155	1,000	1,000	
		目 計	0	0	0	0	0	0	0	323,155	1,000	1,000	
		合 計	0	0	0	0	0	0	0	323,155	1,000	1,000	

10 未収金回収促進のための取組状況調べ
該当なし

11 不納欠損額調べ
該当なし

1 2 負担金、補助金、交付金及び委託料支出状況調べ

(1) 負担金

(平成29年12月31日現在)

(単位：円)

予算科目 (目)	予算額令達額	負担金の名称	支出先	負担率	支出年月日	支出金額	支出の根拠法令名等 (規約、要領等を含む)	備考
栽培漁業センター費						0		
新規以外のもの						50,000		
目計						50,000		
合計						50,000		

(2) 補助金
該当なし

(3) 交付金
該当なし

(4)委託料

(平成28年12月31日現在)(単位:円)

予算科目 (目)	国補 単原 の別	委託料の名称	委託契約の 相手方	当初契約			完了 年月日	支出の状況			備考				
				予定価格	契約年月日 契約額	契約期間		入札等 年月日 (契約年度 締結年月 日)	支出 区分	支出 年月日		金額			
													変更契約(最終)		履行検査 年月日
													契約年月日	契約額	
栽培漁業センター費	単原	栽培漁業センター施設維持 管理業務委託	(公財)鳥取県栽培漁業協会	6,322,000	(29.4.1) 6,322,000	29.4.1 ~30.3.31	(免除)	概算	29.6.14 他	4,381,000	16-00183548 業務仕様書に定める業務を行うこと ができる機能・技術を持つ団体は当 協会のみ				
				()	()	()	随								
栽培漁業センター費	単原	湖山池漁場環境回復試験に 係る魚類採捕等業務委託	湖山池漁業協同組合	1,723,000	(29.4.1) 1,722,800	29.4.1 ~30.3.31	(免除)	精算			16-00181842 湖山池で漁業権を有しているのは湖 山池漁協のみ				
				()	()	()	随								
栽培漁業センター費	単原	アユ資源緊急回復試験に係 る魚類採捕等委託業務	個人	930,000	(29.10.13) 930,000	29.10.13 ~30.3.31	(免除)	前金	29.11.15	930,000	17-00161721				
				()	()	()	随								
栽培漁業センター費	単原	栽培漁業センター海水井戸 ポンプ2号点検査業務	石倉ポンプ鳥取	701,460	(29.8.1) 701,460	29.8.1 ~29.10.10	(免除)	精算	29.11.6	701,460	17-00100942				
				()	()	()	随								
栽培漁業センター費	単原	マサハ種苗生産試験業務	(公財)鳥取県栽培漁業協会	585,000	(29.4.1) 585,000	29.4.1 ~30.3.31	(免除)	概算	29.6.14	585,000	17-00179609 業務仕様書に定める業務を行うこと ができる機能・施設を持つ団体は当 協会のみ				
				()	()	()	随								
栽培漁業センター費	単原	栽培漁業センター海水井戸 3号洗浄・点検業務		()	()	~	()				予定				
				()	()	()	()								
予定価格が250万円 未満のもの										1,748,472					
目計										8,345,932					
合計										8,345,932					

13 工事請負費調べ

該当なし

14 財産に関する調べ

(1)公有財産

ア 土地

(平成29年12月31日現在)

行政・普通 財産の 区分	施設名等	所在地	前年度末		本年度異動状況						差引		備考	
			面積(m ²)	価額(円)	増減別	異動日	面積(m ²)	価額(円)	増減理由	登記年月 日	面積 (m ²)	価額(円)		
														増加
行政財産	栽培漁業 センター	湯梨浜町石 脇二ノ北畑 1144-1	5,325.09	42,461,795	増加	H						5,325.09	42,461,795	
			19,424.98	1144-1に含む	増加	H							19,424.98	1144-1に含む
	栽培漁業 センター	湯梨浜町石 脇二ノ甲亀山 1302-1	606.07	1144-1に含む	増加	H						606.07	1144-1に含む	
			90	1144-1に含む	減少	H						90	1144-1に含む	
計			25,446.14	42,461,795							25,446.14	42,461,795		
普通財産	(該当なし)				増加	H						0	0	
計			0.00	0	減少	H					0	0	0	
合計			25,446.14	42,461,795							25,446.14	42,461,795		

イ 建物

(平成29年12月31日現在)

行政・普通財産の区分	機関名又は施設名等	所在地	前年度末		本年度異動状況						差引		備考			
			面積(m ²)	価格(円)	増減別	異動日	面積(m ²)	価格(円)	増減理由	登記年月日	面積(m ²)	価格(円)				
行政財産	フムシ飼育培養棟	湯梨浜町石脇1166	417.60	28,580,819	増加							417.60	28,580,819			
	アロビ棟		1,990.17	140,289,909	増加								1,990.17	140,289,909		
	管理棟		691.92	76,063,378	増加								691.92	76,063,378		
	機械棟		386.70	39,796,653	増加								386.70	39,796,653		
	車庫		25.00	1,623,511	増加								25.00	1,623,511		
	ポンプ庫		8.75	831,957	増加								8.75	831,957		
	ヒラメ棟		1,382.87	134,170,880	増加								1,382.87	134,170,880		
	クルマエビ飼育棟		360.40	24,779,724	増加								360.40	24,779,724		
	アロビ棟調温施設		7.93	747,295	増加								7.93	747,295		
	ろ過槽		97.90	7,925,584	増加								97.90	7,925,584	撤去	
	養殖技術指導研修施設		135.00	17,033,390	増加								135.00	17,033,390		
	漁具倉庫		99.89	7,577,099	増加								99.89	7,577,099		
					減少											

行政・普通財産の区分	機関名又は施設名等	所在地	前年度末				本年度異動状況						差引		備考		
			面積(m ²)	価格(円)	増減別	異動日	面積(m ²)	価格(円)	増減理由	登記年月日	面積(m ²)	価格(円)					
																増加	減少
行政財産	サザエ棟	湯梨浜町石脇 1166	695.50	178,346,560	増加					695.50				178,346,560			
	ポンプろ過機等		54.91	35,515,430	増加					54.91					35,515,430		
	試料前処理室		30.00	4,223,000	増加					30.00					4,223,000		
	加温棟		125.00	22,557,000	増加					125.00					22,557,000		
	防疫検査施設		91.00	20,171,550	増加					91.00					20,171,550		
	井戸取水ポンプ室1		7.78	3,867,647	増加					7.78					3,867,647		
	井戸取水ポンプ室2		7.78	5,689,565	増加					7.78					5,689,565		
	井戸取水ポンプ室3		7.78	5,843,573	増加					7.78					5,843,573		
	倉庫		30.69	2,992,500	増加					30.69					2,992,500		
	海水井戸ポンプ小屋		11.65	47,416,950	増加					11.65					47,416,950		
	津波対策避難階段		12.74	8,157,000	増加					12.74					8,157,000		

行政・普通財産の区分	機関名又は施設名等	所在地	前年度末				本年度異動状況						差引		備考	
			面積(m ²)	価格(円)	増減別	異動日	面積(m ²)	価格(円)	増減理由	登記年月日	面積(m ²)	価格(円)	面積(m ²)	価格(円)		
																増加
行政財産	生産種苗等飼育展示施設	湯梨浜町石脇 1166	49.28	28,866,100	増加							49.28	28,866,100			
	アワビ棟(増設)		120.00	30,183,800	増加								120.00	30,183,800		
計			6,848.24	873,250,874				97.90	7,925,584			6,750.34	865,325,290			
普通財産	(該当なし)				増加											
計			0	0	減少			0	0			0	0			
合計			6,848.24	873,250,874				97.90	7,925,584			6,750.34	865,325,290			

ウ 山林
該当なし

エ 動産（船舶、浮標、浮棧橋、浮ドック、航空機）

（平成29年12月31日現在）

区 分	前年度末		本年度中の増減（△）			差引	備 考
	取得年月日	数 量	年 月 日	数 量	取得又は処分価格 円		
船舶	H22.9.1	6.1				6.1	おしどり
船舶	H25.11.29	0.9				0.9	石脇丸
合 計		7.0				7.0	

オ 物 権
該当なし

カ 無体財産権（特許権、著作権、商標権、実用新案権等）
該当なし

キ 有価証券
該当なし

(2) 金券類の受払状況

ア 金券の受払状況

（平成29年12月31日現在）

種 別	前年度末	本 年 度 中		差引	備 考
		受 入 額	払 出 額		
郵便切手及び郵便はがき	円 21,882	円 43,400	円 44,360	円 20,922	
合 計	21,882	43,400	44,360	20,922	

イ タクシーチケットの受払状況
該当なし

15 財産の貸付け及び使用許可調べ

(1)土地及び建物

ア 土地
該当無し

イ 建物

(平成29年12月31日現在)

行政・普通財産の区分	貸付(使用許可)目的	所在地	数量又は面積	貸付(使用許可)年月日	当初貸付(使用許可)年月日	貸付(使用許可)期間	貸付(使用)料円		貸付(使用許可)先		備考
							単価	本年度の貸付(使用)料	住氏	所名	
行政財産	種苗生産業務	湯梨浜町石脇1167	5,788.70 m ²	H29.3.31	H6.4.1	H29.4.1 ~ H30.3.31		無償	湯梨浜町石脇1166	16-00184173	工作物
			2,923.22 m ²	"	"	"		無償	(公財)鳥取県栽培漁業協会		
計											
普通財産	(該当無し)										
計											
合計											

※工作物(2,923.22m²)は建物(5,788.70m²)に含まれる面積である。

(2) 物品

(平成29年12月31日現在)

品名	数量	規格・銘柄	貸付期間	貸付料(円)		貸付先		使用場所	貸付目的	備考
				単価	本年度の貸付料	住氏	所名			
万能投影機	1	ニコンイステック V-12BS	H29.4.1~ H30.3.31	月額・年額	免除	東伯郡湯梨浜町石脇1166 (公財)鳥取県栽培漁業協会	栽培漁業センター	種苗生産業務		
ユニット実験台	1	三英PW式	"	月額・年額	"	"	"	"		
ドラフトチャンバー	1	三英PW式	"	月額・年額	"	"	"	"		
壁側実験台	6	三英DW式	"	月額・年額	"	"	"	"		
ユニット流し台	9	三英DW式	"	月額・年額	"	"	"	"		
電気泳動装置	1	AE-6133	"	月額・年額	"	"	"	"		
中央実験台	4	三英DW式	"	月額・年額	"	"	"	"		
システム顕微鏡	1	オリンパスBX50-34 -VPT-1PM 20-3P	"	月額・年額	"	"	"	"		
紫外線流水式滅菌装置	1	フナテックLP-40	"	月額・年額	"	"	"	"		
自動給餌器(稚魚用)	4	松阪製作所 さんし郎KC-15H	"	月額・年額	"	"	"	"		
作業台	1	三英DW式	"	月額・年額	"	"	"	"		

品名	数量	規格・銘柄	貸付期間	貸付料(円)		貸付先		使用場所	貸付目的	備考
				単価	本年度の貸付料	住氏	所名			
自動給餌器(稚魚用)	4	松阪製作所 さんし郎KC-40-CJ-DT	H29.4.1~ H30.3.31	月額・年額	免除	東伯郡湯梨浜町石脇1166 (公財)鳥取県栽培漁業協会	栽培漁業センター	種苗生産業務		
自動給餌器(幼魚用)	4	松阪製作所 さんし郎KC-15H	"	月額・年額	"	"	"	"		
FRP水槽	1	KF-800S	"	月額・年額	"	"	"	"		
アルミリアふ化槽	2	FRP500・	"	月額・年額	"	"	"	"		
FRP水槽	2	KF-1500S	"	月額・年額	"	"	"	"		
波板洗浄機	1	クボタ工業NK-500S型	"	月額・年額	"	"	"	"		
自動波板洗浄機	1	クボタ工業NK-500型	"	月額・年額	"	"	"	"		
紫外線流水式滅菌装置	4	フナテックLP-50	"	月額・年額	"	"	"	"		
冷却遠心機	1	日立工機機CF15R	"	月額・年額	"	"	"	"		
PCRサーマルサイクラー	1	宝酒造TP3000	"	月額・年額	"	"	"	"		

品名	数量	規格・銘柄	貸付期間	貸付料(円)		貸付先		使用場所	貸付目的	備考
				単価	本年度の貸付料	住氏	所名			
高温恒温器	1	MOV-112P	H29.4.1~ H30.3.31	月額・年額	免除	東伯郡湯梨浜町石脇1166 (公財)鳥取県栽培漁業協会	栽培漁業セン ター	種苗生産業務		
空気脱水滅菌装置	1	サニトロンSS-10G	"	月額・年額	"	"	"	"		
蛍光顕微鏡	1	NikonE600B	"	月額・年額	"	"	"	"		
DNA検出・撮影装置	1	AE-6915型	"	月額・年額	"	"	"	"		
フロッピーソフト	1	ピンピンZ-65L	"	月額・年額	"	"	"	"		
測定台	2	三英DW式	"	月額・年額	"	"	"	"		
冷却遠心機	1	久保田MODEL1920	"	月額・年額	"	"	"	"		
分光光度計	1	アマシヤムファルマシア パイオテク	"	月額・年額	"	"	"	"		
ELISA機器	1	5501575	"	月額・年額	"	"	"	"		
スライスカッター	1	KTD-3型	"	月額・年額	"	"	"	"		
アスピレーター	1	WJ-15	"	月額・年額	"	"	"	"		

品名	数量	規格・銘柄	貸付期間	貸付料(円)		貸付先		使用場所	貸付目的	備考
				単価	本年度の貸付料	住氏名	所名			
クリーンベンチ	1	PAU-1300AG	H29.4.1~ H30.3.31	月額-年額	免除	東伯郡湯梨浜町石脇1166 (公財)鳥取県栽培漁業協会	栽培漁業センター	種苗生産業務		
和船	1	SW-24BF	"	月額-年額	"	"	"	"		
船外機	1	29.9KWスズキ製	"	月額-年額	"	"	"	"		
冷蔵庫	1	SRR-K1883	"	月額-年額	"	"	"	"		
フォークリフト	1	TCMフォークリフト FH GE15T4	"	月額-年額	"	"	"	"		
チャップパー	1	エムラES-2 フードスライサー	"	月額-年額	"	"	"	"		
軽トラック	1	スズキ 鳥取480け 9477	"	月額-年額	"	"	"	"		
軽四輪貨物自動車	1	エプリー 鳥取480こ5227	"	月額-年額	"	"	"	"		
軽四輪貨物自動車	1	エプリー 鳥取480こ5228	"	月額-年額	"	"	"	"		
合計	72				0					

16 借受不動産明細調べ

該当なし

17 職員住宅及び職員駐車場の管理状況

(1) 職員住宅

該当なし

(2) 職員駐車場

ア 管理状況

(平成29年12月31日現在)

財産の区分	所在地	1区画の面積 ㎡	貸付(使用)料(月額)
行政財産	東伯郡湯梨浜町石脇1166	12.5	1,000
普通財産	(該当無し)		

イ 異動状況

(行政財産)

(平成29年12月31日現在)

月別	前月末 人	当月減		当月増		当月末		調定額 円	減免 状況	収入済額 円	収入 未済額 円
		うち減免 人	人	うち減免 人	人	うち減免 人	人				
4月	34					34		34,000		34,000	0
5月	34					34		34,000		34,000	0
6月	34	1		1		34		34,000		34,000	0
7月	34					34		34,000		34,000	0
8月	34	1				33		34,000		33,000	1,000
9月	33			1		34		34,000		34,000	0
10月	34					34		34,000		34,000	0
11月	34					34		34,000		34,000	0
12月	34					34		34,000		34,000	0
合計	305	2	0	2	0	305		306,000		305,000	1,000

18 寄附物件の受納状況調べ
該当なし

19 備品の処分状況調べ

(平成29年12月31日現在)

品名 (規格・銘柄)	数量	取得 年月日	耐用 年数 年	取得 価格 円	不用決定 年月日	不用とす る理由	処 分				備 考
							売却棄 却の別	売却方法・ 売却理由	処 分 年月日	売却額 ・処分 費用 円	
軽キャバン	1	H23.8.1	5	1,245,680	H29.8.8	老朽化し 更新したた め	売却		H29.8.8	新車納入 業者が廃 棄処分	
軽キャバン	1	H23.8.2	5	1,245,680	H29.8.9	老朽化し 更新したた め	売却		H29.8.8		
デスクトップ パソコン	1	H24.4.18	6	141,446	H29.9.21	故障し修 理不能に より更新し たため	売却		H29.9.21	産業廃棄 物として 一括処分	
高圧蒸気滅菌器 (オートクレーブ MLS-3020)	1	H12.1.31	5	456,751	H29.9.22	老朽化し 更新したた め	売却		H29.9.22	処分費用 17,280円	
水質測定器 (マルチ水質モニタリ ングシステムU-22- 10m拡張アダプタ U)	1	H13.4.25	15	518,000	H29.9.22	老朽化に よる処分	売却		H29.9.22		
合 計	4			3,089,557							

20 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ

(1) 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ

該当なし

(2) 物品の照合

(平成29年12月31日現在)

照合年月日	現物確認できなかった物品	現物が確認できなかった物品名	個 数
29年8月23日 ～ 29年9月7日	・ 有 ・ 無		

栽培漁業センター

個別様式

2.1 船舶（公有財産の船舶を含む。）の管理状況

（平成29年12月31日現在）

船名	トン数	取得 年月日	稼働 日数 日	燃 料		修繕費等 円	左の主な内容	定係港又 は船籍港	占用料 円
				消費量 ℓ	金 額 円				
おしどり	6.1	H22.9.1	31	3,400	275,400	100,008	修繕	泊漁港	免除
石脇丸	0.9	H25.11.29	98	510	66,541	96,541	メンテナンス、点 検、修繕	泊漁港	免除
計	7.0		129	3,910	341,941	196,549			

2.2 事業別予算執行状況調べ

（平成29年12月31日現在）

目 名	栽培漁業センター費	事業名	事業の概要（目的、実績等）
		サケマス養殖技術支援事業	2.4 試験研究調査事業別実施状況調べに記載
		美保湾ヒトデ大量発生による資源影響調査	2.4 試験研究調査事業別実施状況調べに記載
		資源回復技術開発試験	2.4 試験研究調査事業別実施状況調べに記載
		豊かで安心な魚を育む漁場環境監視事業	2.4 試験研究調査事業別実施状況調べに記載
		キジハタ栽培漁業実用化支援調査	2.4 試験研究調査事業別実施状況調べに記載
		魚病対策事業	2.4 試験研究調査事業別実施状況調べに記載
		養殖事業展開可能性調査	2.4 試験研究調査事業別実施状況調べに記載
		湖山池漁場環境回復試験	2.4 試験研究調査事業別実施状況調べに記載
		沿岸漁業重要資源調査	2.4 試験研究調査事業別実施状況調べに記載
		東郷池ヤマトシジミ資源回復試験	2.4 試験研究調査事業別実施状況調べに記載
		アユ資源緊急回復試験	2.4 試験研究調査事業別実施状況調べに記載
		環境に適した漁法の開発試験	2.4 試験研究調査事業別実施状況調べに記載
		藻場造成調査	2.4 試験研究調査事業別実施状況調べに記載
		未利用海藻増産試験（海の葉っぱビジネス創出活動 PartⅡ）	2.4 試験研究調査事業別実施状況調べに記載
		漁港内養殖可能性調査事業	2.4 試験研究調査事業別実施状況調べに記載

事業名	実施計画 期間 (予算額) 支出済額	担当室	試験研究 調査の目的	試験研究調査の 成果・課題
サケマス 養殖技術 支援事業	28年度 ～ 30年度 円 (1,047,000) 504,279	養殖・漁場 環境室	ギンザケの高水温耐性獲得の検討 による歩留まり向上、ニジマス等の三 倍体技術の精度向上による販売機会 増大により、サケマス類の増産を検討 する。	(成果) ・ギンザケのビタミンC投与による 海水馴致能力向上の可能性が示唆 された。 ・4倍体処理を行いふ化仔魚を得た。 (課題) ・体内のビタミンC濃度の測定が機 器の故障により出来なかったた め、追加試験が必要。
美保湾ヒ トデ大量 発生によ る資源影 響調査	28年度 ～ 29年度 円 (1,227,000) 890,180	増殖推進室	(調査対象) ヒトデ、パイ、ヒラメ (目的) (単) 大量発生したヒトデの現状等を把 握し、効率的駆除方法の提示を行 う。また、栽培漁業資源に与える 影響を把握し、増殖方法の検討を 行う。	(成果) ・平成29年度は、平成26年度に比べ てヒトデの分布量は少なかった。 水深別・季節別の分布を見ると、 水深15mより浅い場所や春に多く分 布することが分かった。 (課題) ・漁業者からヒトデ分布の情報が寄せ られており、引き続き継続してモニ ターしていく必要がある。ヒトデの 胃から殻高1cm以下の小型のパイ稚 貝が確認されたことから、ヒトデに よる食害の程度を把握する必要があ る。効率的な駆除のため、産卵期を 把握する必要がある。
資源回復 技術開発 試験	19年度 ～ 年度 円 (2,153,000) 1,500,751	増殖推進室	(調査対象) イワガキ、パイ (目的) (単) 平成19年度から漁業者が実施し ているイワガキ及び平成22年度か ら取り組んでいるパイ資源回復の 取り組みを支援するため、資源状 況(効果)の把握と増殖策に関する 調査を実施する。	(成果) ・イワガキ礁での食害防除手法の開 発、岩盤清掃(付着面再生)機械 の改良を行った。 ・パイ産卵器の設置適期について沿 岸漁協に情報提供を行った。 (課題) ・イワガキの付着時期(岩盤清掃適 期)を特定する必要がある。
豊かで安 心な魚を 育む漁場 環境監視 事業	19年度 ～ 年度 円 (3,666,000) 1,681,242	増殖推進室	(調査対象) 海洋環境(水温・塩分・クロロフ イル)、有害赤潮プランクトン貝 毒調査、藻場の監視 (目的) (単) ・沿岸漁業者の操業に役立つ海況 と海洋観測前後の漁獲情報等を 提供する。	(成果) ・漁場環境や漁獲情報の迅速な提供 によって漁業者の日々操業に役立 った。 ・有害赤潮の発生予測によって被害 防止策を迅速に講じることができ た。 ・特産品であるイワガキの安全な流 通とブランド保持に寄与した。

事業名	実施計画 期 間 (予算額) 支出済額	担 当 室	試 験 研 究 調 査 の 目 的	試験研究調査の 成 果 ・ 課 題
(豊かで 安心な魚 を育む漁 場環境監 視事業)			<ul style="list-style-type: none"> ・有害赤潮プランクトンを監視する。 ・イワガキ出荷の安全・安心の確保のため貝毒原因プランクトン、ノロウイルスを監視する。 ・海藻の分布状況を監視する。 	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有害赤潮等の被害を防止するには県内及び隣県の各機関との連携・監視調査が必要である。 ・磯根資源を守るためには、県下を広く網羅した定期的な藻場監視調査が必要であり、長期的に知見を集積することが必要である。
キジハタ 栽培漁業 実用化支 援調査	28 年度 ～ 32 年度 円 (4,068,000) 2344, 223	増殖推進室	「6 主な事業に関する調べ」に記載	(成果) 「6 主な事業に関する調べ」に記載
				(課題) 「6 主な事業に関する調べ」に記載
魚病対策 事業	20 年度 ～ 年度 円 (2, 161, 000) 1, 079, 893	養殖・漁場 環境室	<p>(調査対象) アワビ、アユ、ギンザケ、ヤマメ、ニジマス、イワナ、コイ、フナ、マサバ、キジハタ、アユカケ等</p> <p>(目的) (補助) 薬事法及び食品衛生法に基づき養殖水産物の食の安全性を確保するため、養殖場の巡回指導、水産用薬品の残留検査、適正使用指導を行う。 種苗生産や養殖試験過程で発生する疾病の原因究明、対策技術の開発を行い、安全生産に寄与する。</p>	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚病発生時に必要な検査を実施し、原因究明を図った。 ・種苗生産で発生する魚病についての防除策を研究した。
				(課題) 生産量の急増しているマス類養殖に関する最新の魚病疾病・対策の情報収集が必要である。
養殖事業 展開可能 性調査	28 年度 ～ 年度 円 (5, 907, 000) 4,853,120	養殖・漁場 環境室	「6 主な事業に関する調べ」に記載	(成果) 「6 主な事業に関する調べ」に記載
				(課題) 「6 主な事業に関する調べ」に記載
湖山池漁 場環境回 復試験	12 年度 ～ 年度 円 (4, 687, 000) 2, 115, 242	増殖推進室	<p>(調査対象) ヤマトシジミ、魚介類</p> <p>(目的) (単) 「湖山池将来ビジョン」に基づく塩分導入が、湖内の魚介類へ与える影響および水質の変化を把握するとともに、重要魚種の資源状況把握及び水産振興策としてのシジミ増殖策を検討する。 また、漁場環境の改善と造成を目的とした、安価な手法による覆砂の効果を検証する。</p>	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・湖内の魚介類の生息状況を把握した。 ・H27年生まれ群が順調に成長し、漁獲量が一部回復した。H28年生まれ群も順調に生育している。
				(課題) ・ヤマトシジミ漁が安定して行える漁獲量などを試算する必要がある。 ・安価な覆砂の効果が何時まで続くか把握する必要がある。

事業名	実施計画 期間 (予算額) 支出済額	担当室	試験研究 調査の目的	試験研究調査の 成果・課題
沿岸漁業 重要資源 調査	13 年度 ～ 年度 円 (10,363,000) 7,166,269	増殖推進室	(調査対象) ヒラメ、ナガレメイタカレイ、マ ダイ、サワラ、マアジ、ソデイ カ、サザエ等 (目的) (単) 沿岸漁業の重要対象種の資源動 向と漁獲実態に関する調査を行 い、漁業者へ資源管理方策の提言 や高効率な漁業経営を促進するた めの情報発信を行う。	(成果) ・県中部海域で稚魚等のデータ蓄積 し、稚魚の発生動向等から来漁期の 漁獲予測など漁業者の関心のある情 報を提供できた。また、ヒラメに寄 生するネオヘテロボツリウムの発生 状況を監視できた。さらに、これま で調査できていなかった夏泊小型定 置網で漁獲されるマアジの漁獲動向 を把握できた。
				(課題) ・稚魚の発生動向やネオヘテロボツ リウムの発生状況の監視調査を継続 すること。
東郷池ヤ マトシジ ミ資源回 復試験	29 年度 ～ 31 年度 円 (3,796,000) 2,812,616	増殖推進室	(調査対象) ヤマトシジミ (目的) (単) ・「シジミ増殖マニュアル改訂 版」の効果検証を行う。 ・漁獲量増産の実践を図る。	(成果) ・シジミの資源量を把握した。 ・目標とする塩分管理が実行できた。
				(課題) ・近年、シジミ稚貝の発生量が少ない ことから、現在行っているシジミ増殖 策の効果を検証する必要がある。
アユ資源 緊急回復 試験	29 年度 ～ 31 年度 円 (4,611,000) 3,440,007	増殖推進室	「6 主な事業に関する調べ」に記載	(成果) 「6 主な事業に関する調べ」に記載
				(課題) 「6 主な事業に関する調べ」に記載
環境に適 した漁法 の開発試 験	27 年度 ～ 29 年度 円 (2,155,000) 1,149,640	増殖推進室	(調査対象) 漁法開発、小型底びき網の漁具改 良 (目的) (単県) 海水温の上昇等の環境の変化に よる漁獲の低迷や厳しい沿岸漁業 経営の改善に繋げるため、調査を 行う。	(成果) ・サワラの夜間釣りは、県外事例を参 考に県内でも冬季に水深30m前後で 釣獲できた。カレイ類のはえ縄調査 で県東部で釣獲できた。小型底びき 網の効率化試験で改良した漁具(桁 棒の長さ・網目の大きさ)で漁獲量 データを蓄積できた。
				(課題) ・サワラの夜間釣りは、水深60m以深 や季節別の釣果を検討する必要が ある。カレイ類のはえ縄調査で漁 具改良や漁場探索を行う。小型底 びき網の効率化試験は隣県との漁 業調整上普及が難しいため、調査 は一区切りとし、今後、要望に応 じて実施する。

事業名	実施計画 期 間 (予算額) 支出済額	担当室	試 験 研 究 調 査 の 目 的	試験研究調査の 成 果 ・ 課 題
藻場造成 調査	27 年度 ～ 29 年度 円 (657,000) 366,340	増殖推進室	(調査対象) 海洋環境、ノコギリモク、クロ メ、食害生物(ムラサキウニ等) (目的)(単県) 海水温の上昇等により藻場が衰退 しているため、藻場造成の成功率 向上につながるよう藻場の増加・ 衰退の原因を究明するとともに、 浅場～深場(水深約十数m)までを 対象とした藻場造成方法を開発す る。	(成果) ・平成27年に水深6mで手応えを得た ノコギリモクやクロメを用いて更 に深い水深10mで御来屋でスポアバ ックの投入を行ったが、平成27年 時に比べ効果が低く、鉄キレート 材や岩盤清掃を試みた。 ・食害生物のムラサキウニが大量発 生している浜村で1年間駆除調査を 行い、藻場の回復を確認した。 (課題) ・漁業者から藻場造成の要望の強い 深場(水深10m以深)は、他の海藻 が少ないことから藻場造成しても 食害にあってしまうなど従来の方 法では藻場造成が難しく、今後は 岩盤清掃や生長促進材の利用など も含めた効果を検証する。
未利用海 藻増産試 験(海の 葉っぱビ ジネス創 出活動Pa rt II)	27 年度 ～ 29 年度 円 (2,097,000) 734,969	養殖・漁場 環境室	(調査対象) アカモク、ホンダワラ、フサイワ ズタ、ハバノリ等 (目的)(単) 未利用海藻ほりおこし調査(H24 -26年度)によって発掘したアカ モク、ホンダワラ、フサイワズ タ、ハバノリ類などの未利用海藻 の更なる増産を促し、漁業者等が 取り組む未利用海藻を素材とした 6次産業化(海版葉っぱビジネス) を創出、拡大するための技術 的支援を行う。	(成果) ・アカモク・ホンダワラについては 母藻を岩盤清掃した漁場に設置す る方法(スポアバッグ法)により 効果的な漁場造成ができることが わかった。 ・県内のアカモク生産量(一次加工 品)は年々増加しており、加工処 理等で地元での新たな雇用の創出 に繋がっている。 ・セイヨウハバノリの人工種苗による港 内養殖の可能性が明らかとなった。 (課題) ・アカモク・ホンダワラについては 造成効果が場所により差があるた め、生息適地の環境要因(水温・ 流れ等)を調査し、より効率的な 造成手法を検討する。 ・生産量がいまだ少ないホンダワラ ・フサイワズタ・セイヨウハバノリ の安定生産に向けた増殖・養殖技 術の確立を進める。 ・さらなる未利用海藻のほりおこしと 造成技術等の調査・研究を進める。

事業名	実施計画 期 間 (予算額) 支出済額	担 当 室	試 験 研 究 調 査 の 目 的	試験研究調査の 成 果 ・ 課 題
漁港内養 殖可能性 調査事業	29 年度 ～ 31 年度 円 (8,138,000) 4,963,464	養殖・漁場 環境室	「6 主な事業に関する調べ」に記載	(成果) 「6 主な事業に関する調べ」に記載
				(課題) 「6 主な事業に関する調べ」に記載
計	円 (56,733,000) 35,602,235			

2.4 船舶運航調べ
(試験船おしどり)

(平成29年12月31日現在)

事業名	出航先	期間		乗船者			備考
		月日～月日	日数	調査員	乗務員	その他	
美保湾ヒトデ大量発生による資源影響調査	海上1区	29.4.25/5.2	2	延人 4	延人 4	延人	
資源回復技術開発試験	海上1区	29.9.8/12.23	2	3	2		
豊かで安心な魚を育む漁場環境監視事業	海上1区	29.4.24 ～29.9.25	6	7	9		
キジハタ栽培漁業実用化試験	海上1区	29.6.15 ～29.10.17	5	9	7	5	
環境に適した漁法の開発試験	海上1区	29.6.29 ～29.8.18	4	4	6		
藻場造成事業	海上1区	29.7.25 ～29.12.4	3	6	3		
養殖事業展開可能性調査	海上1区	29.4.15 ～29.11.22	6	10	6	1	
漁港内養殖可能性調査事業	海上1区	29.7.21 ～29.11.2	3	5	3		
合計			31	48	40	6	

(試験船石脇丸)

(平成29年12月31日現在)

事業名	出航先	期間		乗船者			備考
		月日～月日	日数	調査員	乗務員	その他	
資源回復技術開発試験	海上1区	29.4.26～29.12.22	20	延人 31	延人 23	延人 1	
豊かで安心な魚を育む漁場環境監視事業	海上1区	29.5.9 ～29.10.10	9	16	13		
キジハタ栽培漁業実用化支援調査	海上1区	29.7.27	1	2	1		
養殖事業展開可能性調査	海上1区	29.6.23～29.7.6	3	3	6		
藻場造成事業	海上1区	29.4.13～29.12.28	60	75	64		
未利用海藻増産試験	海上1区	29.12.28	1	1	1		
漁港内養殖可能性調査事業	海上1区	29.5.12/8.22	2	3	2		
おしどり維持管理	海上1区	29.4.3/4.5	2	0	2		
合計			98	131	112	1	

25 用船の状況調べ

平成29年12月31日現在

事業名	調査内容	隻数	出向先	借上げ延日数	金額(円)		備考
					計	使用料内訳	
美保湾ヒトデ大量発生による資源影響調査	桁網調査	2	美保湾	9	720,000	80,000円/日・隻×9日	4マイル未満3t以上 4h以上30m未満
沿岸漁業重要資源調査	桁網調査	3	賀露～青谷沖、泊～天神川灘	16	720,000	80,000円/日・隻×9日	4マイル未満3t以上 4h以上30m未満
	桁網調査他				630,000	90,000円/日・隻×7日	4マイル超3t以上 4h以上30m未満
	ソデイカ漁期前試験操業	2	賀露沖	2	180,000	90,000円/日・隻×2日	4マイル超3t以上 4h以上
キジハタ栽培漁業実用化支援調査	追跡調査他	22	網代、酒津、赤碕、中山、御来屋、淀江地先	33	495,000	30,000円/日・隻×0.5日×33日	4マイル未満3t未満
		1	赤碕	1	30,000	60,000円/日・隻×0.5日×1日	4マイル未満3t以上
湖山池漁場環境回復試験	シジミ調査他	1	湖山池	19	190,000	20,000円/日・隻×0.5日×19日	内水面
東郷池ヤマトシジミ資源回復試験	シジミ調査他	3	東郷池	8	80,000	20,000円/日・隻×0.5日×8日	内水面
合計		34		88	3,045,000		

○ 意見、要望等

(1) 業務に関する意見・要望等

特になし

(2) 監査委員事務局に対する要望等

特になし
